

令和6年度 学校自己評価書(様式)

	鈴鹿市立若松小学校		NO. 1																
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	学校関係者評価と今後の改善点																
学力向上×ICT活用	確かな学力の定着を図る学校づくり ① 児童の強みと弱みを全教職員で共有し日頃の授業に生かす 【研修】 → 全教員の研究授業の実施(年7回) → 専門性や力量を高める研修会への参加と還流 → 効果的なT・T、少人数による授業の取組・県わかる授業の研修還流(国語・1年5h、3年5h×2、4年5h、算数・4年5h、6年3h×2) → 指導能力向上のためのミニ研修会実施(年7回) ② 若松タイムで弱み克服のための学習に取り組む 【研修】 → 具体的な方法(朝の読書:週1回・国語科のモジュール学習:週3回・読む書くワークシートまたはYOMUワークシート:週1回)	確かな学力の定着を図る学校づくり 【成果】 ・校内研修の領域を国語科とし、本校児童の課題である「自分の言葉で説明する力の弱さ」や「発表する子としない子に分かれてしまう」「自分と他者との考えを比較しながら、学習を深めていくことの実感が少ない」等の解決に向けて、自分の考えや思いを書くこと、相手に共感しながら聞くことに主眼をおいて研修をすすめることができた。 ・児童の強みと弱みを全職員で共有し授業改善に取り組んだ。 ・全教員が研究授業に取り組んだ。 ・研修会に積極的に参加し専門性や力量を高めるための還流を行った。 ・県「わかる授業」のアドバイザーによる授業参観を6回受け、日頃から効果的なT・T、少人数による授業に取り組んだ。 ・指導能力向上のためのミニ研修会を7回取り組んだ。 ・全国学力・学習状況調査の結果より 全国と比較して平均正答率は、国語は2.3P低い。読解力と複数条件に合った短文の記述に弱い。算数は8.4P低い。計算などの基礎基本の未定着。 ・各学年、若松タイムで弱みである漢字や文章の読み取りの克服のための学習に取り組めた。 【課題】 ・全国学調の結果から、漢字や計算など基礎基本の未定着がみられるので、弱みに応じた取組(漢字テストなど)をさらに検討する。	○確かな学力の定着を図る学校づくり 【学校関係者評価】 ① 児童の強みと弱みを全教職員で共有し日頃の授業に生かす ・一人ひとりの児童の姿をとらえて全職員で共有し、授業改善に取り組んでいるのは大いに評価できると思う。 ・大変よいと思う。 ・一人ひとりの児童の強みと弱みに注目した授業の取組、引き続きお願いします。 ・児童にも個人差があり一律にはできないが、全教職員で共有し、取り組んでいると思う。 ② 若松タイムで弱み克服のための学習に取り組む ・学力アップのため、若松タイムで弱み克服の取組を進めたのはよかった。すぐには結果が出ないかもしれないが、続けていってほしい。 ・大変よいと思う。 ・モジュール学習の継続は力になると思います。 ・若松タイムの学習への取り組みを継続してほしい。																
	<指標> 【児童アンケート】「学校の勉強はよく分かりますか」 90%以上	<指標> 【児童アンケート】「学校の勉強はよく分かりますか」 ○ 93%	①②【今後の改善点】 ・若松タイムの活用の内容の見直しと、各クラスの取組状況の情報交換。 ・基礎基本の定着の取組の再考																
	③ 教職員のICT活用能力の向上 【研修、情報】 → ICT支援員による「わかりやすい授業」のためのICT機器の効果的な活用についての研修会 夏休みに実施 → R5年度の成果と課題の引継ぎ と 校内研修の実施	【成果】 ・今年度も教科の枠にとられず、授業のさまざまな場面でICT機器の活用を進めることができた。 ・授業内における、より効果的な活用方法を考えて実践を行うことができた。 また、ICTサポーターを活用し、児童により具体的に詳しく操作方法を学ばせることができた。	③ 教職員のICT活用能力の向上 【研修、情報】 ・ICTだけに頼るのではなくそれぞれの利点を生かした指導法を追究してほしい。 ・各個人の能力を伸ばすためにも、活用は重要です。																
	④ 児童一人一台端末の活用能力と情報活用能力の向上 【研修、情報】 ・「児童生徒の情報活用能力到達目標」を基にした全校取組の実施 → 情報活用能力の育成の授業に取り組む ・学年段階に応じてドキュメントなどで日記や社会見学 of 感想文などのまとめを書くことに端末を利用する。 <指標> 【児童アンケート】 日常的な持ち帰り 80%	【課題】 ・ICT機器の操作が中心となる学習活動にならないように、学習内容を考える必要がある。 ・児童が、ICT機器の操作に慣れるように、教員も研修を通して、学んでいく必要がある。	④ 児童一人一台端末の活用能力と情報活用能力の向上 【研修、情報】 ・個人差は大きいと思うが、保護者にも理解してもらいながら、家庭学習の意識づけを今後も続けていってほしい。 ・ICT機器の操作がスムーズにできるよう繰り返し学ぶ機会を増やすのは必要だと思う。 ・一人1台端末は、今後も続けてほしいと思います。 ・活用能力の向上、個々にあった情報の活用を進めてください。																
	⑤家庭学習習慣と基本的生活習慣の定着 【研修】 ・学校運営協議会、PTAとの情報共有 ・学年×10分の家庭学習の定着 家庭学習強化週間を年3回実施	【成果】 ・学校運営協議会の場で現状を伝えた。 ・PTAの家庭教育学級で、「子育ての充実のために～子育ての中で実現したいこと～」の学習会を行い、スマホなどの使い方などについて啓蒙した。 ・大木中校区で「家庭学習強化週間」を年3回取り組み、意識づけを図った。 ・家庭学習を学年×10分の取り組みは行えている。しかし、取組もだんだんと低くなり、家庭学習の習慣も保護者と児童ともに意識がついていない割合が増えてきている。 【課題】 ・家庭学習の定着を目指して、自主学習の内容を校内の掲示板で示し、強化週間を継続していく。 <table><tr><td>学年</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>高学年</td></tr><tr><td>行く程、家庭学習への</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <指標> 【児童アンケート】「家で学校の予習・復習をしていますか」 90%以上 「平日、家で学年×10分の勉強をしていますか」 80%以上	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	高学年	行く程、家庭学習への								⑤家庭学習習慣と基本的生活習慣の定着 ・学校だよりを読みやすく、各家庭への啓蒙をさらに図りたい。 ・家庭学習の成果の見える化ができないか。
	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	高学年											
行く程、家庭学習への																			
⑥ 読書習慣の推進と図書館の整備 【研修、図書】 ・若松タイムでの朝読書 ・読み聞かせボランティアさんによる読み聞かせの実施 ・図書巡回指導員による図書指導や読み聞かせの実施	【成果】 ・1・2学期に読み聞かせボランティアによる、読み聞かせを延べ 回行い、子どもたちが本に触れる機会をもつことができた。 ・一学期26307冊から二学期9月から11月の3か月で3237冊に貸出し冊数が増加。 【課題】 ・読み聞かせボランティアの高齢化により、実施できない学年が増加している。	⑥ 読書習慣の推進と図書館の整備 ・朝読書、読み聞かせの充実を。 ・自分自身も体を動かすことが好きで読書週間がなかったのですが、大人になって目的達成のため沢山の本を読みました。																	
<指標> 【年間貸出冊数】 8,000冊 (昨年度 7556冊)	<指標> 【年間貸出冊数】 7824冊	⑥【今後の改善点】 ・夏休みなど長期の休みの前には、クラスで本を借りにくい時間を確保する。 ・読書記録カードの活用推進																	
長期欠席対策	子どもが楽しく安心して学べる学校づくり ① 子どもとの温かい人間関係づくり、人権感覚の育成を図り、不登校を生まない学校づくりをめざす。 【人権部】 ・情報共有と関係機関への連絡、早期対応 → 様子が気になる児童について日頃から情報共有を行い(職員会議、打合せなど月2回以上)、必要な時にはSCや関係機関に連絡早期対応を図る。【全教職員】 → 「子ども支援シート」活用と家庭連絡、家庭訪問の実施 【人権部、特Co、担任】 → SCによる観察・面談、コンサルテーションの有効活用と還流 【人権部、特Co】 → 「すずこファイル」のある児童の保護者との面談を各学期1回行う。 → 困り感のある児童について、保護者の理解のもと支援会議を実施し、手だての検討、関係機関との連携を進める。【人権部、特Co】 → 個別的教育支援計画・指導計画を作成し個に応じた支援を行う。【担任、特Co】 ・スクールライフサポーター、ほっとルーム、巡回すくすくの活用と連携 学期に1回、各担当との情報交換を行う。 <指標> 【児童アンケート】「学校はたのしいですか」 肯定的回答 90%以上 【児童アンケート】「困ったことがあると、先生や友だちに話したり、相談したりできますか」 90%以上	子どもが楽しく安心して学べる学校づくり 【成果】 ・様子が気になる子について日頃から情報共有を行い、必要な時にSCや関係機関に連絡し早期対応を図った。校区スクールカウンセラーの観察や面談を積極的に行き入れるようにした。 ・教育支援課や子ども家庭支援課との連携を引き続き行った。 ・「すずかっ子支援ファイル」を所有する児童を中心に、困り感のある児童について保護者の理解のもと支援会議を実施し、手立ての検討をすすめた。(個別的教育支援計画・指導計画を作成し、個に応じた支援を行うように心がけた)。 ・スクールライフサポーターや「ほっとルーム」担当者の支援や言葉かけのおかげで、教室には入れていなくても「ほっとルーム」に登校し、個に応じた課題に取り組むことができる児童が増えた。 【課題】 ・支援会議やSC面談が必要と思われるが、SCにつなげにくい状況があった。 ・「子ども支援シート」を効果的に活用することができていなかった。 ・スクールカウンセラーや巡回すくすく教室担当者との打合せや情報共有の時間確保が難しかった。 ・児童アンケートより、困ったことがあった時に、先生や友だちに相談できる割合が、5年生76%、6年生82%と高学年の児童の方が相談しにくい状態がある。 <指標> 【児童アンケート】「学校はたのしいですか」 肯定的回答 ○93% 【児童アンケート】「困ったことがあると、先生や友だちに話したり、相談したりできますか」 ▲87%	子どもが楽しく安心して学べる学校づくり 【学校関係者評価】 ①子どもとの温かい人間関係づくり、人権感覚の育成を図り、不登校を生まない学校づくりをめざす。 ・気になる児童や家庭については早い対応をしてもらい、保護者と面談をしたり関係機関につなげるなど必要な支援をしていただいたのは評価できると思う。 ・現在すごくやっていただいていると思う。 ・物理的、精神的に学習環境を整えることが何よりも大事だと思います。引き続き取り組みをお願いします。 ・自分が小・中学校時代、学校へ行かないことは考えられませんでした。「学校へ行くこと」、「みんなと会えること」が楽しいと思える環境をつくることがですが、具体的に提案できないのが残念です。																
	② 一人ひとりの違いを認め合い互いを大切に合える仲間づくり【人権】 ・「なかよし学級」児童の理解教育の授業を行い、交流を深める。【担任】 ・人権教育を基盤にしたなかまづくりを目指して、道徳の時間の充実を図る。(道徳・人権授業を公開1回/年) ・外国児児童の日本語教育指導の充実と多文化共生教育に取り組む。	【成果】 ・「なかよし学級」の理解を深めるための授業を行った。 ・学期はじめに「いじめ防止のための授業」を全校で取り組んだ。 ・人権フォーラム(6年)、特別支援学級交流会などを通して、中学校区の児童の交流を図った。校区校長会や各担当者会、夏の学習会で職員の情報交換を行った。 ・学期に数回、業間に「なかよし班活動」で縦割り班活動を行い、異学年交流に取り組んだ。 ・人権強化月間を中心に、学校・保護者・地域が協力して「いじめ防止」に取り組む、人権教育の研究授業に取り組んだ。また、ポジティブカードで友だちのよい所を見つけるようにした。 ・JSLバンドスケール等を行い、外国にルーツのある児童の日本語教育の指導充実を図った。 【課題】 ・「いじめアンケート」や子どもの訴えから、いじめ事案が分かってくる関係機関と連携して対応を続けた。今後も日記や日頃の聞き取りなどから、児童の状況を把握し、職員で情報共有し対応していく。	② 一人ひとりの違いを認め合い互いを大切に合える仲間づくり【人権】 ②【今後の改善点】 ・カウンセラーや巡回すくすく教室担当との情報共有が難しかったので担当者との情報共有話の時間を時間割に入れていく。 ・「学校は楽しい」と感じているだけでも「悩みを相談しにくい」と感じている児童が多い。スクールカウンセラーやほっとルーム担当などと児童が話せる時間を確保できるよう時間の工夫を進める。																

令和6年度 学校自己評価書(様式)

鈴鹿市立若松小学校		NO. 2	
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	学校関係者評価と今後の改善点
非認知能力育成	豊かな心と健やかな体を育成する学校づくり ① 自己肯定感と社会性、やり抜く力、自制心の育成 【生指】 ・発達段階に応じた体験活動やキャリア教育の推進(各学年で年数回実施) →これらの活動の中で、感情や行動をコントロール(自制心)しながら取り組ませ、「やりぬく力(目標に向かって諦めずに頑張る力)」「社会性(協力して活動すること)」を育てる機会を大切にしていく。【担任】 →取り組んだ時の感想の交流や校内掲示、お便りでの広報を通じて、取り組み中に見られたお互いのよさを認め合う機会を大切にし、自分にも良いところがあると思える体験を重ねさせる。【担任】 ・あいさつ、朝ごはんの取組の継続に重点を置いて教師集団が率先して取り組み、基本的な生活習慣を定着させ、学校生活のルールを守る。 →食の学習を通して、児童一人ひとりが望ましい食生活に気づき、自ら健康管理できる能力を育てる。【生指】 ＜指標＞ ・「自己肯定感」を高めるための研修会を年間2回実施 ・【児童アンケート】「自分にはよいところがあると思いますか」 90%以上 ・【市アンケート】「私は人と同じくらい価値の人間である」 否定的10%未満 ・【市アンケート】「最後までやり遂げる」 否定的 10%未満 ・【市アンケート】「誘惑に負けない」 否定的10%未満	豊かな心と健やかな体を育成する学校づくり 【成果】 ・職員間での情報共有により、気になる児童について、担任以外の教職員が関わって指導を行った。 ・あいさつの大切さについて、各学年で道德の教科書等教材を用いて学習してきた。 ・児童会が企画し、「あいさつ習慣」を実施した。相手を意識してあいさつしようとする姿が多くなった。 ・年3回、栄養教諭の食育を行った。児童は興味をもって授業を受けていたが、生活の改善までは至っていない。継続的な声掛け、保護者への啓発を行いたい 【課題】 ・児童会で2学期に取組を行ったところ、進んで「あいさつ」をする子が増えた。継続的に児童会などの取組を行っていきたい。 ＜指標＞ ・「自己肯定感」を高めるための研修会を年間2回実施 ・【児童アンケート】「自分にはよいところがあると思いますか」 ▲83%※5・6年生は74%と低い ・【市アンケート】「私は人と同じくらい価値の人間である」否定的▲21.7% ※自己肯定感 ・【市アンケート】「最後までやり遂げる」 否定的 ▲29.2% ※やりぬく力 ・【市アンケート】「誘惑に負けない」 否定的▲36.7% ※自制心	豊かな心と健やかな体を育成する学校づくり【学校関係者評価】 ① 自己肯定感と社会性、やり抜く力、自制心の育成 【生指】 ・他人(友だち)に良いところを言ってもらうことで自分の良いところに気づかせてもらうこともあるかと思います。 ・担任以外の先生からもアドバイスをもらい、指導の工夫や向上につなげられるのは素晴らしいこと、職員間の連携の大切さを感じる。 ・挨拶は、生きていく上での基本であり、大切なことからです。上級生が積極的にやれば、下級生はその背中を見て育っていくと思います。 ・朝の挨拶から始まり、いろいろな場面での挨拶が元氣よくできる事は人とのコミュニケーションづくりの第一歩になると思う。継続して取り組んでほしい。 ・自己肯定感が自信につながり、新たな意欲にもつながると思います。心身ともにたくましい子どもの育成に引き続きご尽力ください。 ・青バトで巡回してこちらから声をかけると挨拶が戻ってくる子とこない子がいる。全体的には戻ってくる子が多い。戻ってこない子にも声をかけ続けることが重要だと思います。 ①【今後の改善点】 ・今後も児童に対して職員からの肯定的な声かけを行っていく。 ・児童会と連携したあいさつの取組を継続すると共に、職員も率先してあいさつを行っていく。 ・非認知能力を高める取組について、検討していく。
	② 整理整頓・清掃の行き届いた誰にとっても過ごしやすい環境づくり【生指】 ・毎日の掃除の時間の活動を見届け、指導する。 ・校内の不要なものを片付ける。草刈りなどを定期的の実施し、職員室から運動場の様子が見届けられるようにする。 ③ いじめ防止の取組【生指】 ・「いじめ防止基本方針」の策定・確認と見直し ・いじめや差別、仲間づくりに関わる授業に取り組む。 ・「いじめアンケート」の学期1回の実施と積極的認知	【成果】 ・地域の有志の方による除草作業により、美しい環境が保つことができた。 【課題】 ・奉仕作業の時期と学校行事の時期を調整する。 ・日頃の清掃活動で徹底できなかったところが多かった。 【成果】 ・各学期はじめに、いじめや差別、仲間づくりに関わる授業を全学年が行った。 ・「いじめアンケート」を学期に1回実施して、積極的認知を行って事後指導に取り組んだ。 ・ピンクシャツ運動に4月・11月に取り組み、児童や地域、保護者に啓蒙した。 ・「いじめ」については、ピンクシャツ運動に取り組む、いじめを許さないことを発信できた。また同時期に「あいさつ習慣」に取り組んだことで、いじめを許さない雰囲気を生むことが大切だと児童に伝えることができた。 ・いじめアンケートを学期に1回行った。校内いじめ対策委員会を開き、情報を共有、指導や方針の確認ができた。 【課題】 ・いくつかの学年で、友だちが嫌がることをし続けることがわかり対応した。	② 整理整頓・清掃の行き届いた誰にとっても過ごしやすい環境づくり【生指】 ・ごみのポイ捨てもそうですが、美しい環境の所にはごみも捨てにくい。雑草の茂っている所は隠すようにごみが捨ててある。 いじめもそうですが、日々の環境改善が重要と思います。 ③ いじめ防止の取組【生指】 ・いじめや差別、仲間づくりなど具体的な場面を通して人の気持ちや言葉のつかいかたなど振り返る時間を今後も作っていったほしい。
	＜指標＞ 【児童アンケート】「学校であった出来事を家で話していますか」90%以上	＜指標＞ 【児童アンケート】 「学校であったできごとを家で話していますか」 ▲87%	②③【今後の改善点】 ・日頃から校内環境整備に気を配り、毎日の清掃を児童と共に職員も取り組む。 ・今後も日常的に言葉遣いを含めた自分の行動を振り返らせていく。 ・校舎内、校庭の環境整備を継続的にやっていく。
地域連携	保護者・地域と連携し、期待と信頼に応える学校づくり ① 若松の文化などに目をむけた地域学習に取り組み、郷土を愛する心を育成する ・若松地域づくり協議会との連携 5年生 田植え・稲刈り体験 1・2年 サツマイモの苗植えイモほり 3・5年 若松ふれあいフェスタ ・大黒屋光太夫顕彰会との連携 4年 ＜指標＞ 【児童アンケート】「地域の行事に参加していますか」 90%以上	保護者・地域と連携し、期待と信頼に応える学校づくり ①【成果】 ・通学路の安全確保のため安全安心ボランティア2名に毎日見守って頂くともに、職員による見守りも適時、実施した。民生委員による「あいさつ運動」を引き続き行っていたくと同時に、若松駐在にも協力いただいた。 ・校庭の環境整備として、トラック整備。芝山の除草、玄関前の整備、花壇の整備などに、地域の方に取り組んで頂いた。 ・地域連携行事に、どの学年も積極的に参加することができた。 1・2年 サツマイモの苗植え、収穫体験 3・5年 ふれあいフェスタ若松 4年 光太夫めぐり(フィールドワーク) 5年 田植え・稲刈り体験 ＜指標＞ 【児童アンケート】「地域の行事に参加していますか」 〇92%	保護者・地域と連携し、期待と信頼に応える学校づくり【学校関係者評価】 ① 若松の文化などに目をむけた地域学習に取り組み、郷土を愛する心を育成する ・子どもの育成は、学校・家庭・地域が連携して行っていくことが重要です。地域づくり協議会としては、活動の重点項目の一つであり、今後も積極的に対応していきます。 ・地域と学校との連携で地域の文化を知り、各行事への参加、環境整備など、いろいろな機会を通して協力体制がとれるとよい。 ・地域の立案・実行行事に学校をあげて取り組んでいるのはとてもよいことで、大人になってから役に立つと思う。どしどしと学校カリキュラムに入れて児童を外に出して教育してほしいと思う。 ・大変よくやっていたいっていると思う。 ・学校、児童のために地域ボランティアの活動は継続、発展させていきたい。学校行事は「地域主導」にならないよう教職員の意向を十分に聞いて取り組んでほしい ・地域づくり協議会として、できる限り協力していきます。 ・地域の伝統文化の継承を図ってきたい。 ・ラジオ体操も小さい頃から始めればと思いますが、やはり親の考え方次第だと思います ①【今後の改善点】 ・若松の文化等の地域学習は、地域の方と相談しながら取り組んでいく。
	② 学校自己評価と共に保護者・児童アンケート・学校関係者評価を実施し、学校改善につなげる。 (1回／年)	②③【成果】 ・学校運営協議会やPTAの委員会にて、避難訓練で気をつけることなどの意見をいただいた。 ・これまで減少傾向であった「ラジオ体操」の実態から、地域の方に声かけをして頂き取り組むことができた 【課題】 ・双方向の交流の推進とまでは難しかった。避難場所や経路の安全確保	② 学校自己評価と共に保護者・児童アンケート・学校関係者評価を実施し、学校改善につなげる。 ・来年度も、職員や児童だけでは難しい取組などは、学校運営協議会を通じて、地域のみなさんに相談しながら協力をお願いしていきたい。 ・夏休みのラジオ体操参加率向上については、地域の協力も含め、継続的に取り組んでいくべきと思います。
	③ 学校運営協議会(年6回)にて、学校の現状や取組を伝え、地域との双方向の交流を推進する。	④【成果】 ・2学期末で37号発行した。保護者からは、好意的な意見を頂いた。	④ずっと「学校だより」を読ませていただいておりますが、学校の取組や考え方がよくわかる。続けてほしい。
	④ 学校・学年だよりの発行、ホームページの更新を継続的に行い、積極的な情報発信に努める。 (学校だより2回／月)	⑤【課題】 ・新しいボランティア人材を発掘することはできなかった。	⑤ ボランティア等の地域の人材を発掘し、本校にとって効果的かつ継続可能な活動について検討を進める。 ・PTAと地域が協力し、ボランティア発掘に注力する必要があると思います。
	⑤ ボランティア等の地域の人材を発掘し、本校にとって効果的かつ継続可能な活動について検討を進める。	⑥【課題】 ・児童の様子を交流できるのはよいが、中学校2校との交流・連携は時間敵に難しい面がある。	②③④⑤【今後の改善点】 ・中学校2校との連携は、その都度中学校に小学校の実情を伝えていく。 ・いろいろな機会を通じて、ボランティア募集を呼びかけていく。 ・学校だより、学級通信では、行事の結果だけでなく方針や考えなどを意識して発信していく。
その他	働き方改革の推進 ① 1 総労働時間縮減に取り組み、健康でやりがいのある職場づくりをめざす。 【成果指標】 ・月45時間、年360時間を超える時間外労働者の人数(0人) ・時間外労働 月1時間削減(18時間／月) ・休暇取得率 15日／年 【活動指標】 ・定時退校日を月2日実施し、設定した日の定時に退校できる職員割合80%をめざす ・放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合80%をめざす	働き方改革の推進 ① 第2、4水曜日を定時退校日として教職員の勤務時間削減を目指す。 【成果指標】 ・一人当たり月平均時間外労働時間25時間以下 R5 17.4時間 → ▲R6 23.9時間 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 12名以下 R5 4名 → ▲R6 10名 ・月80時間を超える時間外労働者の延べ人数 0名以下 R5 0名 → R6 0名 【活動指標】 ・定時退校日に退校できた職員の割合 70%以上 R5 83% → R6 87% ・60分以内に終了した放課後開催の会議の割合 60%以上 R5 60% → R6 75% 【成果】 ・60分以内に終了した会議の割合が増加した。 【課題】 ・会議の内容を協議と連絡に分けて、かかる時間を短縮していく必要がある。 ・chromebookの持ち帰りやスクールサポートスタッフによる印刷業務などの実施により、学校での平均時間外労働時間は25時間以下であるが、平日の時間外労働時間は増加傾向である。	働き方改革の推進【学校関係者評価】 ・職員不足などで先生方の負担も大きいと思うが、できるところから改善を進めていってほしいと思う。 ・熱心に子ども達に関わっていただき、ありがたく思う。「学校だより」は何を大切に考えているかがよくわかり、子ども達の姿もよく伝わる。 ・外からの見方でしかできないのですが、朝も早くから(8時頃には児童を迎える)7時半ごろから出勤して夕方遅くまで1日が長い。土日には環境整備に出たりと大変だと思う。ボランティアや業者に頼むなど、もう少し改善が必要。 ・PTAと共に仕事を減らしていけたらと思う。 ・管理職を含めた全教職員の働き方改革を最優先課題として取り組んでください。 ・仕事のできる方に仕事が集まるとよく言われますが、仕事のできる方は進め方を考え、効率よく仕事をされていると思います。情報の共有化を図り、どこに何があるのか、何をすればよいのか、標準化を図っていくのがよい。 ①【今後の改善点】 ・年間行事予定を適時、見直していくことで業務の平準化を図り、特定の職員に業務が集中しないように引き続き取り組む。